

第35号(2020年春)

発行・千葉市動物公園ボランティアーズ

## 千葉市動物公園

①お父さんは たよれるリーダー

### — フサオマキザル —

南米ボリビア周辺の森に住むフサオマキザル。野生では8~15頭で主に樹上で暮らし、フルーツ、木の実、小動物などを食べます。園ではパン、サツマイモ、ニンジン、キャベツ、小松菜、オレンジ、ヤマモモの葉、ミルワームなどを与えています。

展示場への出入りは順番が決まっていて、父親のカルロスを先頭に、赤ちゃんを連れた母カロリーナと子ども2頭が続きます。子どもの世話をよくみて家族を守っているカルロスは強そうな外見ですが、人と目を合わせないのも争いをさけるため、おだやかな性格。好奇心旺盛で展示場の木の皮をめくって調べたりしています。知能、学習能力が高く、野生では石を道具に使い実を割ったりします。訓練により人間の介助をする事でも知られています。



②名前に似合わぬ 美しい鳥

### — ヘビクイワシ —

鳥類水系ゾーンにいる、黒いスピットをはいたような足の長い鳥が、ヘビクイワシです。足でける力が体重の5倍近くあり、ヘビをけって弱らせてから食べることから、この名前が付けられました。体の全長は100cm~



150cm、つばさを広げると200cm、体重は2kg~4kg。アフリカ大陸に生息し、地上生活をしますが飛ぶこともできます。野生ではヘビのほか、昆虫、鳥の卵、ネズミ、ウサギも食べます。

当園のヘビクイワシは2羽ともここで生まれました。名前はありませんが、オスは1997年6月生まれで23歳、メスは2006年6月生まれで14歳になります。時々ゲゲ、ググと鳴きます。

樹上に巣作りをはじめました。卵が産まれるのを楽しみに見守りましょう。



★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください。

③あれ… ヤセた?!

### — レッサーパンダ —

野生のレッサーパンダがすむところは中国やインド、ミャンマーなどの標高2000~4000m級の山で、竹が交じる森林です。夏でも涼しく冬はきびしい寒さとなる環境に生きるため、彼らは沢山の毛で体温を保ちます。レッサーパンダがモコッと見えるのはその毛によるもので、実は体は見かけほど大きくありません。当園のレッサーパンダの体重は平均して6kg台です。4~6月ごろは換毛といって冬毛が抜ける時期にあたります。体のラインが普段よりも細めに見えるこの期間、他の季節と比べてみてくださいね。また毛の抜け方には個体差があります。風太は16歳となってやや毛はボソボソ、手足には白髪も見られますが、食欲旺盛・元気です！



④もこもこの美しい毛並み

### — チンチラ —

南米の山岳地帯に暮らすネズミの仲間。寒さや乾燥といったきびしい環境に適応するために毛は皮膚が見えないほど密集し、ひとつの毛根から細くなめらかな毛が50~60本も生えています。この上質の毛皮のために乱獲された悲しい歴史もありますが、今はワシントン条約で厳重に保護されています。野生では草や木の根や樹皮、サボテンの葉や根を食べますが、園では小松菜・生のニンジン・サツマイモ・干し草・ペレット等を与えています。一生伸び続ける歯をもつチンチラには噛み応えのあるエサが大切です。



展示場にある砂場での砂浴びは毛並みを保つための欠かせない日課。おっとりとして見えますが、11時からのエサの時間や夕方になると本来の俊敏な動きや驚くほどのジャンプ力を見ることができます。